

事例 3 0 空気逃し調整で攪拌水流を弱めた事による水質改善事例

1 基本情報および一年間の測定結果等

処理方式	嫌気ろ床接触ばっ気				人槽/使用人員				5人槽/4人使用			
メーカー/型式	前澤化成工業(株)/VR型				日平均汚水量				0.84m ³ /日			
作業予定月(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
保守・清掃・法定	清掃	-	保守	-	-	-	保守	-	法定	-	保守	-

	放流水透視度(度)	DO (mg/L)	pH	1次処理流出水透視度(度)	1次処理1室(cm)		1次処理2室(cm)		沈殿槽(cm)		
					スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	
清掃	平成25年1月18日	19	/	7.5	14	7	24	/	23	/	/
保守	平成25年3月11日	30	7.5	7.6	26	0	10	0	7	0	0
保守	平成25年7月17日	24	5.9	7.4	17	3	15	0	11	0	0
法定	平成25年9月12日	21	6.2	7.5	15	4	18	2	16	0	3
保守	平成25年11月13日	36	3.7	7.3	23	6	20	1	17	0	9

2 法定検査時の槽内状況と設定状況および概要図

法定検査時の状況			概要図		
① 1次処理流出水と放流水透視度に大差がない。 ② 生物膜の生成が少ない。 ③ 攪拌水流が強く、DOは6.2mg/Lと高い。			<p>ろ材 接触材</p>		
	メーカーの基本設定	保守点検の設定			
循環装置	停止	停止			
空気逃がし	状況により空気量調整	全閉			

3 槽内写真

流入				放流
	1次処理1室の状況 スカム厚4cm	①1次処理流出水の採水箇所 ②空気逃がしバルブ(黄色)	③2次処理の状況 ④放流水の状況	
	①左:1次処理流出水 15度 ④右:放流水透視度 21度	③2次処理内液 右:逆洗前 左:逆洗後(剥離汚泥少ない)	②空気逃がしバルブ 全閉から1/2回転開く調整。	

4 透視度低下の原因

- ① 1次処理流出水透視度と放流水透視度に大差がない。
- ② 2次処理に生物膜の生成が少ない。
- ③ 2次処理の攪拌水流が強い。

5 法定検査から保守点検への指示内容

- ① 空気逃がしバルブを全閉から1/2回転開き、攪拌水流を弱めて下さい。

6 保守点検から法定検査への返信内容

放流水の水質		措置① 平成 25年 9月 16日 (法定検査から 4日後)
透視度(度)	20	指示通り調整しました。
pH	7.5	
DO(mg/L)	6.4	
放流水の水質		措置② 平成 25年 9月 29日 (法定検査から 17日後)
透視度(度)	26	回復の傾向があり様子を見ます。
pH	7.4	
DO(mg/L)	5.8	
放流水の水質		措置③ 平成 25年 10月 14日 (法定検査から 32日後)
透視度(度)	32	放流水透視度が回復しました。
pH	7.2	
DO(mg/L)	4.3	
放流水の水質		措置④ 平成 年 月 日 (法定検査から 日後)
透視度(度)		
pH		
DO(mg/L)		

7 保守点検から清掃への申し送り事項

- ① 空気逃がしバルブは全閉から1/2回転開いています。
- ② 循環水は停止しています。

8 清掃時の留意点

- ① 清掃記録票から水質等、一年間の経過と申し送り事項の内容を踏まえ作業と調整を行う。
- ② 1次処理1室・2室のろ材は網様円筒状。
- ③ 空気逃がしバルブの開度が分かりにくい場合は、バルブのS字やO字を起点にすると分かりやすい。または、空気逃がしバルブに結束バンド等を巻くことで位置が分かりやすい。